

伊賀市社会事業協会 2016

2016年3月10日 第32号

発行者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 赤澤 行宏

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2

TEL:0595-21-5545

FAX:0595-23-6670

URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

雪の記憶

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

顧問 森下達也

この会報が仕上がるのは多分三月上旬、早春の光が伊賀路をあまりなく照らしていることだろう。しかし今日は一月二十五日、私は原稿用紙を前に置いて、吹きすさぶ北かぜの音を聴いている。気象情報会社ウェザーニューズは、四十年ぶりの大寒波と大雪に対する注意を呼びかけているようだ。だから、というわけではないが、この小文では雪を背景においた昭和史上の出来事を、私なりの視点で取り上げさせて頂くことにした。

「冬將軍」という言葉がある。日本では冬に南下するシベリア寒気団を主に指しているが、語源としては、一八一二年ナポレオン・ボナパルトがモスクワ攻略に失敗し、冬の厳しい寒さと雪中を退却した故事に因んだものである。寒さと雪と飢えの中で踏めぬフランス軍兵士が、冬に慣れたロシア軍の追撃を受けたため、当初六十万以上あった大軍は、ネマン川を越えて漸く帰還したとき、わずか五千になっていったそうだ。

歴史は繰り返すというが、二十世紀になって日本の同盟国ドイツが、十九世紀のフランスと全く同じ轍を踏んだのはご承知のことと思う。一九四一年六月二十二日、アドルフ・ヒトラーはソ連への奇襲攻撃を敢行、当初は各戦線にわたりソ連軍を圧倒した。更に首都モスクワを直指す作戦を十月二日から始め、十一月初旬にはクレムリンまであと十数キロのところまで迫ったが、そこで足がとまる。例年より早い冬の到来によって発生した降雪と泥濘に苦しんだのである。短期決戦を想定していたドイツ軍のモスクワ攻略戦はここで頓挫し、ヒトラーの叱咤にもかかわらず結局退却を始めるのだ。作戦失敗が確定し退却を始めたのは十二月八日である。釈迦に説法ながら、この日付にご注目頂きたい。

申すまでもなく一九四一年十二月八日未明は、真珠湾攻撃という日本史上最大の愚策を決定づけた瞬間であり、もはや後もどりの

の出来ない道へ踏み込んだ瞬間であった。しかしながら、常勝ドイツの初めての敗退という驚くべき情報がもう少し早く日本にとどいていたら、日本政府も軍部も対米開戦を思いとどまっていたのではないかという説が、かなり有力なのである。

その根拠は、昭和天皇をはじめ、そもそも満州事変以後の、大陸への拡張政策の危うさに懸念を示していた人たち、また、日米の生産力の差を具体的に示して日米戦は到底勝ち抜けないと考えていた人たち、などが政府や軍部の中核にかなり多かったという戦後の検証である。やがて血気盛んな若手将校たちに担がれる主戦派が勢力を広げるが、もし同盟国ドイツ第三帝国の、勝利の不確実さが早く伝わっていたら、日本の進路選択も変わっていたであろうという説には、充分頷けるものがある。

七十数年前の選択を今頃詮索してみても仕方ない、とお考えの方は当然多いであろう。しかし私のように、大陸で育ち、ソ連軍の侵攻を受け、多くの民間人の悲運に接してきた世代にとって、



蒼ふくらむ白木蓮

綺麗さっぱり忘れられることではないのである。青年将校に撃たれる危険を冒したとしても、何故無謀な開戦をとめてくれなかったのだ、という思いは命尽きるまで消える筈がない。大陸の曠野には、脱出する日本軍に見捨てられた母親と子どもの骨が、未だあちこちに埋まっているという事実を、どうかご記憶頂きたい。

さて、雪を背景にした昭和の重大事件といえは、一・二六事件を避けては通れない。昭和十一年二月二十六日、三十年ぶりの大雪に見舞われた首都でのこのクーデター未遂事件は、あまりにも有名である。従って詳細は省くが、皇道派と称する青年将校たちが一四八三名の下士官と兵を率いて蹶起し、まず三宅坂から永田町一帯を制圧した。一方、高橋是清大蔵大臣、斎藤實内大臣、渡辺錠太郎陸軍教育總監らを殺害、鈴木貫太郎侍従長を負傷させた。旗じるしは「昭和維新」で、国の大義を正すための維新であることを天皇に訴えるつもりであったが、昭和天皇は激怒され直ちに鎮圧するよう陸海軍に命じたのである。その時の天皇のお言葉が記録されていて、「朕が股肱（ここう）の老臣を殺戮す 此の如き凶暴の将校等 其精神に於ても何の恕すべきものありや」とあり、お怒りのほどが推察される。鎮圧後兵は原隊に復帰したが、首謀者三名の将校を含む一七名が軍法会議によって死刑の判決を受け、銃殺されたのである。

この事件が発生したときの私はまだ四歳と四ヶ月、従って何もわかっていなかったが、敗戦後帰国してから振り返るとあらためて不思議な気持になることがあった。それは、この事件で処刑された青年将校らの精神と行動を、見事な表現で誉め称える軍歌が曾て存在し、その歌詞を私が大体記憶していたことに因る。確かその歌詞の一節は、「昭和維新の春の空 正義に結ぶ益荒男が胸裡百万兵足りて 散るや万朶の桜ばな」であった。記憶が間違っていたら御免なさい。この歌は恐らく事件から程なく作られ、小学校高学年や中学校で歌わせたものと思う。天皇が激怒され処刑された青年将校たち、それを誉め称える歌が学校に迄流布されたのは、軍を先頭に多くの人が戦争へ邁進した時代の、狂気のな

せるわざであろう。昭和二十年八月、天皇の終戦の詔勅を放送させないよう宮内庁を襲い近衛師団の師団長を殺害したのも、戦争続行を主張する一部の青年将校であった。付言しておきたい。

選挙戦の中で、「若さで国を変えますかどうか一票を！」と絶叫するのを聞くと、私は苦々しくなる。一寸待ちたまへ、若けりゃいいというものではあるまい、と言いたくなるのだ。高齢者の円熟した思考と若者の切れ味よい行動が噛み合ってこそ、国の安全と暮らしの安定が図れるというものではないか。私にとって友人でもある高齢者諸兄よ、われわれは「老化」ではなく「円熟」というライフステージに立っていることを示そうではないか。

元・伊賀市社会事業協会 理事長
前・三重県社会福祉協議会 会長

法人内研修

～職員文化力向上を目指して～

当法人では、施設種別ごとに研修組織を結成し、専門性向上を目指してさまざまな視点で研修会を実施しています。そのひとつに、児童、高齢、障がい等すべての種別のスタッフを対象とした「法人内研修」を平成14年度より毎年実施しています。今年度は、計9回の研修会を予定し「知っておきたい葉の知識」「健康で素敵な人生を」「日本人の宗教心」「歴史を学ぶ重要性」「障がい者の人権について」など、バラエティーに富んだ内容で企画し、実施しています。

当法人は「信頼・博愛・誠実」を基本理念に、常に地域に根ざし、地域社会のために存在していることを自覚して、社会福祉事業を展開していくこととしています。このため、職員研修においても一般研修に加え、外部有識者による時

勢を捉えた専門的な知識を深める場を設

けています。福祉分野のみならず、幅広く社会全体に目を向け見識を高めることにより、職員一人ひとりが自ら考え、行動できる力を養い、民間福祉事業を担うことのできる職員の養成に努めています。これからも幅広い分野の研修を企画し、研修体制の充実を図りたいと考えています。



△法人内研修の様子

わくわく友遊旅行 —水族館へGO—

身体障害者支援施設 梨丘園

三重県身体障害者総合福祉センターの大型リフトバスと送迎用リフトバスで名古屋港水族館へ出かけました。

水族館に着くと、大きな水槽の中を悠々と泳ぐ魚たちの姿に、驚きや感動で皆さんの表情が輝いていました。イルカショーでは、音楽に合わせてイルカたちがジャンプし、大きな体を自由自在に動かす姿を見て、歓喜の声があがりました。

潮の香り漂う風を感じながら「来られて良かったわ」と笑顔で話され、楽しい一日を過ごされました。



△水族館楽しんできまーす

日帰り旅行

—伊賀の国大山田温泉さるびのへ—

盲養護老人ホーム 梨ノ木園



△「泡が気持ちいいな」

「大山田温泉さるびの」へ出かけました。

温泉までは1時間程の道のりでしたが、お互いの生活についての話がはずみ、あっという間に到着しました。

楽しみだった温泉は「つるつるして気持ちがいいわ」と喜んでいただけました。その後、季節の会席料理をいただきながら昔の話で盛り上がり、賑やかなひとときを過ごしました。

「また一緒に来たいね」と、笑顔溢れる楽しい旅行となりました。

今回は新たな試みとして伊賀市上野視覚障害者福祉会の皆様との交流を兼ねて、一緒に

「ラジオ体操」始めました!

特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園

ご利用者の皆様に元気良く体を動かしていただこうと、朝のラジオ体操を始めました。

一日の始まりに、それぞれのスタイルでしっかりと体を動かすことにより、活気と潤いのある一日を過ごしていただける良い刺激となっています。ほんのり汗がにじむくらい身体を動かした後は「あー今朝もスッキリした」と、爽快感で思わず顔もほころびます。



△みんなで元気よく「いち、に! いち、に!」

防災頭巾の袋作り

老人デイサービスセンター なしのき

当センターでは、火災・地震・風水害等さまざまな場面を想定して、毎月防災訓練を実施しています。避難時に必ず着用する防災頭巾、いざというとき、直ぐに取り出せる方法はないだろうかと考え、椅子に付けられるように、余り布で袋を作ることにしました。

ご利用者が中心となり、手芸ボランティアさんにアドバイスをいただき「直線縫いの所は、

ほつれてくるから返し縫いをしとこか」などと工夫しながら、袋作りに精を出してくださっています。



△「ここをしっかりと、しとかんとな」

ご利用者の座る椅子一つひとつに、手作りの頭巾袋が備え付けられる日はもうすぐです。

「からだそだて」に取り組んで

「にんにんタイム」って楽しいな〜

花之木保育園



△「ばくにまかせて」

子どもを取り巻く環境や生活様式の変化などにより、子どもが身体を動かして遊ぶ時間が激減し、子どもの体力が低下しているといわれて久しい状況にあります。そこで、本年度、伊賀市では、市内にある34の全保育所(園)で、文部科学省が作成した幼児期運動指針による「からだそだて」に取り組んでいます。当法人の14保育園(所)では、伊賀市版幼児の体力向上実践プログラム「にんにんタイム」に



△「1.2.3.4.・・・いっばいとべるよ」

基づき、毎日体を動かすあそびをしています。

当園でも、走る・投げる・跳ぶ・支えるなど幼児期に習得しておくことが望ましい基本的動作が育まれるようにと願って取り組んでいます。子どもたちは「サッカーしよう」「なわとびしよう」と体を動かすことに積極的になってきました。

体幹が育ち、バランス感覚が身につくことで、意欲や気力の向上につながっているように思います。

『守ろう命』チャイルドシート

「チャイルドシート着用推進モデル園指定」

みどり保育園



△モデル指定園のバトンタッチ

3・4・5歳児と保護者の方々が見守る中、伊賀警察署長から指定書の交付を受けました。子どもたちは署長からお話を聞き「チャイルドシートを着けます」と約束をしました。保護者には「シートベルトだけでは事故時に子どもの体が飛んでいくので、しっかりとチャイルドシートを着用してあげてください」とお話がありました。当園では、独自に行なった保護者へのアンケート調査の結果をふまえて、



△「カチッとね。ベルトの音でスタートだ」



△チャイルドシートの大切さを教わりました

交通安全教室の実施や駐車場での推進活動など、チャイルドシート着用が習慣になるよう啓発活動に努めています。

モデル園指定を機に、更に安心・安全をめざして、子どもの尊い命を交通事故から守り続けたいと思います。

目を輝かせて、環境学習会に参加

—木津川には生き物がいっぱい—

ひかり保育園



木津川上流河川事務所による環境学習会が当園で開催されました。

伊賀市を流れる木津川は、大坂湾にそそぐ淀川水系の上流域にあり、自然環境が整い、多くの生命を育んでいる河川です。

遊水地の看板除幕式に参加し、川や水辺に住む生き物に興味を持った子どもたちは、この学習会を大変楽しみにしていました。会場には、木津川に生息



△「川の魚はこんな道具でとるんだよ」

するカメ、メダカ、ザリガニ、タニシなどが展示してあり、まるで水族館のようです。「すごい、いっぱいいる」「どうやって捕ったのかな」と子どもたちは水槽の周りに集まり目を輝かせていました。ケースを食い入るように見ながら、担当の方から生き物の特徴や生態を聞き、色や形、動きなどをじっくり観察していました。魚の捕り方や道具にも興味津々、生き物への関心が一層高まりました。

続いて、木津川で拾った石に木津川の生き物の絵を描き、最後に「子どもだけで川へ絶対に行かない」と約束をしました。



△「いろいろな魚がいるんだね」

陶芸教室

～できたよ、卒園記念制作～

みどり第二保育園



△コップの完成までもう少し

奈良時代から、当地に受け継がれてきた伝統工芸伊賀焼を体験するために、年長児が森里正様にご指導をいただき、陶芸を楽しみました。「この粘土冷たいなあ」「いつも使ってる粘土よりちよつとやわらかいよ」などと、粘土の感触をしっかりと感じながら、お皿やコップを作りました。お皿は土を平らにのばし形を整えてから、ヘラで花やキャラクターの絵を描き、またコップは棒状にのばした粘土を輪にして重ね、取っ手を付けて仕上げました。子どもたちは、自分のイメージしたものを形にして、表現する楽しさを味わうことができました。

焼き上がりが楽しみです。

お正月おたのしみ会



予野保育園

子どもたちは新春を元気に迎え、お正月おたのしみ会をしました。お正月に経験したことを話し合ったり、年齢の異なる子どもたちがペアを組んで、家庭ではあまりしなくなったカルタやすごろくあそびをしました。すごろくのルールをみんなで決めたり、年下の子が戸惑っていると「今3つ進むんやで」「今度は1回休みや」と優しく教えてあげたりしながら、あそびが展開していきました。「わあ、もうあがりや」と歓声をあげながら、お楽しみ会は大いに盛り上がっていました。



△「次、わたしの番やで・・・」

点字の手紙が届きました

〜一点一点心を込めて〜

上野点字図書館

当館では、市内の学校へ点字器（点字を書く道具）の貸出業務を行なっています。

昨年11月、点字器の貸出をした玉滝小学校4年生・5年生の皆さんから、点字で書かれたお礼の手紙をいただきました。

手紙には「点字を書いてみて、文字を大切にしよう」と心から思うようになり、「点字の本を作る人は大変だなあと思いました」といった感想が寄せられました。児童の皆さんが、点字一覧表を見ながら、一生懸命に心を込めて書いている様子が思い浮かびました。これからもこの経験を生かして、点字図書館の仕事や視覚障がい者への理解を深めていただきたいと思います。



△小学生からの手紙と点字器

思い浮かびました。これからもこの経験を生かして、点字図書館の仕事や視覚障がい者への理解を深めていただきたいと思います。

新しい年を迎えて

かしの木ひろば

利用者の皆さんと新年会を開催しました。紅白のチームに分かれて行なったこま回しや、おせちカードを重箱に詰めていくゲームで、時間が経つのを忘れるくらいに盛り上がりました。

また、特大のシアタースクリーンで映画鑑賞をしました。迫力ある映像とサウンドに、映画館さながらの臨場感を味わうことができました。

この日一番のお楽しみは、ぷっくりと焼けたお餅が入ったぜんざい。みんなでホットプレートで囲みお餅を焼きました。ひと口食べるなり「甘くて、お餅が柔らかいから何個でも食べられるわ」と、大満足。ぜんざいを頬張り、一年の無病息災を祈りました。



△「お餅どこまでのびるのー」

わたし、できることが増えたよ

かしの木ひろば



△ヘルパーと談笑するYさん

Yさんは、当事業所の生活介護事業（通所事業）と居宅介護事業（ヘルパー事業）などを利用して、11年になります。ヘルパーとの関わりの中で、洗濯物のたたみ方や、食器の後片付けなど、身の周りの家事が

とてもスムーズにできるようになりました。

ひろばでの作業中は、自分の持ち場だけでなく、周囲の様子にも目を配りながら積極的に取り組まれています。そんなYさんに、今の心境を尋ねてみました。

- Q. 楽しみにしていることは何ですか。
- A. かしの木ひろばで作業をすること、他の利用者とは話すこと、バス旅行やショッピングに行くことです。
- Q. 家ではヘルパーさんとどんなことをしていますか。
- A. 調理や掃除です。お風呂のカビ取りを覚えました。意欲的に活動されているYさんは、「毎日、かしの木ひろばへ通ったり、ヘルパーさんと一緒に家事を覚えながらおしゃべりしている時間が大好きです」と笑顔いっぱい話してくださいました。

職員互助会の“イキイキ”活動



△体を動かし、心も体もスッキリ!

当法人には、職員の相互共済及び親睦、福利増進などを目的とした職員互助会があり、毎年様々な企画を考え、楽しく活動をしています。本年度はキンボール大会、料理教室、フラワーアレンジメント教室などを開催しました。保育・老人・障がい分野で勤務する職員が、職種や年齢を越えて夢中になって思いきり楽しみ、心身をリフレッシュしています!!



△「いい匂いがしてきたよ」

「ウェルカムフェア」開催

—いっしょに保育士しませんか—

昨年10月、上野フレックスホテルにおいて保育職を対象にした「ウェルカムフェア」を開催しました。育児や配偶者の転勤等を理由にやむなく退職された方で、「ブランクはあるけど、もう一度働いてみたい」という方に気軽に来ていただきたいと企画しました。お茶を飲みながら近況を話し合ったり、思い出話をしたり…。和やかな時間を過ごし、職場復帰に前向きな声も聞かせていただきました。

バリバリ働くもよし! 自分らしい働き方を探してみるのもよし! 少しでも興味がある方はいつでもご連絡をお待ちしています。ご紹介も大歓迎です。



△みんなが輝ける職場です

法人本部事務局 TEL: (0595) 21-5545

当法人の施設

- 盲養護老人ホーム 梨ノ木園
- 訪問介護事業所 なしのき
- 特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園
- 老人ショートステイ 第二梨ノ木園
- 老人デイサービスセンター なしのき
- 在宅介護支援センター なしのき
- 診療所 梨ノ木診療所
- 保育所 曙保育園
- 三田保育園
- 中瀬城東保育園
- 友生保育園
- 花之木保育園
- 予野保育園
- 長田保育園
- 古山保育園
- みどり保育園
- ひかり保育園
- みどり第二保育園
- 府中保育園
- ゆめが丘保育所
- かしのみ園
- ヴェールデ
- キッズうえの
- ふたば
- フレンズうえの
- 第二フレンズうえの
- 風の丘
- 第2風の丘
- 梨丘園
- 梨丘

- 障害者支援施設
- 特定相談支援事業所
- 生活介護事業所
- 就労継続支援B型事業所
- 居宅介護・訪問介護事業所
- 点字図書館
- 盲人ホーム
- 梨丘
- かしの木ひろば
- かしの木ひろば
- かしの木ひろば
- 行動援護・同行援護
- 上野点字図書館
- 伊賀市盲人ホーム
- 法人本部事務局

編集後記

1月のある日、北東の空に虹を見ました。それは太くはつきりとした絵に描いたような虹。伊賀上野城にかかり、まるで城がその虹に吸い込まれていくような光景でした。虹は空気中の水滴と太陽の光との条件が重なってできる気象現象のひとつですが、見つけるとラッキーな気持ちになるのは私だけではないはず…。虹はどこか儂さも感じさせると同時に、希望や門出もイメージさせます。もうすぐ卒園の時期。保育園の子どもたちがあの虹のように力強く希望を持って巣立ってほしいと願っています。さて、新しく「会報2016」となった本紙をお届けできることになりました。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

(編集子N)